

研究課題名 『末梢神経障害における感覚障害の分布に関する観察研究』

本研究は、千葉大学医学部を主任施設とする多施設共同研究であり、ちば県民保健予防財団倫理審査委員会の承認を得て、理事長の許可のもとおこなわれます。

末梢神経疾患の病態基盤は疾患毎に異なり、感覚障害の分布にも疾患毎の差異があると考えられます。免疫性末梢神経障害は主に神経根や神経終末など、血液神経関門が弱い部分が優位に障害を受けると考えられます。一方、糖尿病性末梢神経障害では神経長依存性に障害を受け、下肢優位、遠位優位に障害を受けると考えられます。しかし末梢神経疾患毎の感覚障害分布の違いについては、詳細な研究はなされていません。今回の研究の目的は、末梢神経疾患毎の感覚障害分布のパターンを明らかとし、その病態基盤の差異を明らかとすることです。

本研究では、末梢神経障害を生じる基礎疾患を有しない方を対象として、文書による同意を取得した後に、感覚障害検査を実施し、解析します。感覚神経障害の有無を、額、手指(第2、5指の掌側および背側)、前腕(伸側及び屈側)、大腿および下腿の前面、足背、足趾第一指足底、胸骨柄、臍上部で検査します。検査器具としては、筆、ティッシュ、von Frey フィラメント(太さの異なるフィラメントで感覚閾値を測定する)を用います。

本研究の成果は、末梢神経疾患毎の感覚障害分布のパターンを明らかとし病態基盤の差異を明らかにするための、基礎的研究データとなります。これにより、末梢神経障害の病態基盤の解明や治療法開発に役立つ可能性があります。

研究責任者

千葉大学医学部神経内科 教授 桑原聡 (主任研究者)

ちば県民保健予防財団画像診断部 画像診断部長 杉山園美 (分担研究者)